

あたたかい春の陽ざしに息を吹き返したように、
万物が活動し始める春。自然の恵みを讃え、生物を
慈しむ心を子らと共に見つめたいものですね。

三月は弥生。「弥」は「いよいよ」「ますます」
という意味。「生」は「生い茂る」と使われるよう
に草木が芽吹くことを意味します。草木がだんだ
ん芽吹く月であることから、弥生となりました。

万物の生き生きとした息づきに心はずむ春。
子供達も新しい学年に向けて新たな希望に胸を
膨らませていると思います。

【春の俳句】

まさおなる 空よりしだれざくらかな

富安風生

山又山 山桜又山桜

阿波野青畝

菜の花や 月は東に 日は西に

与謝蕪村

たんぽぽや 日はいつまでも

大空こ

山路来て 何やらゆかし すみれ草

中村汀女

赤い椿 白い椿と 落ちにけり

松尾芭蕉

雪とけて 村いっばいの 子どもかな

河東碧梧桐

よく見れば なずな花咲く 垣根かな

小林一茶



【春の和歌】

石ばしる 垂水のの上の さ蕨の

萌え出づる春に なりにけるかも

志貴皇子

敷島

敷島のやまごころを人とはば

朝日におう 山ざくら花

本居宣長

青丹よし 奈良の都は 咲く花の

薫ふがごとく 今盛りなり

小野 老

昭和天皇御製 (昭和八年)

あめつちの 神にぞいのる 朝なぎの

海のごとくに波たたぬ夜を

【お花見】

奈良時代は梅が、平安時代になると桜が観賞され
るようですが、もともと、花見は農耕に結びついた
宗教的儀式でした。山から降りてくる田の神を花の
咲く木の下に迎え、料理や酒でもてなし、豊作を祈
ったのです。

桜の「さくら」は、本来「さ」と「くら」に別け
ることができず、「さ」は田の神を、「くら」とは、
神座(かみくら)＝神様の座られる場所を意味します。
「さ」＋「くら」で「さくら」なので、桜の木は、
「稲の神様が座られる場所」ということです。桜の
満開の様子を見れば、その年の稲の出来具合を予
測したと言われます。桜の生命力を享受するという
自然信仰がお花見の由来だとも言われます。



天孫瓊杵尊の妻の木花咲耶姫は、桜の花の女神
で「さくら」の語源であるという話もあります。

【花見団子】

昔から花見のお供として親しまれて
きたため、「花見団子」とよぶように
なりました。桜色で春のよるこびを、雪の白で冬
のなごりを、よもぎの緑で夏のきざしを表してい
ます。いずれも邪気を祓い清めるものです。



【春分の日、春季皇霊祭・神楽祭】三月二十一日

春分の日、毎年、三月二十一日か二十二日で、

この日は昼と夜の長さが同じで、その後しだいに昼

が長く、夜が短くなつていきます。春分の日を中日

として、前後三日ずつ、計七日間を仏教でお彼岸と

いいます。中日(春分の日)には太陽が真東から出て、

真西に入るといので、この日、仏道に精進すれば

西方浄土・極楽へ往けるという訳です。そこで寺参り、

お墓参りをして先祖を偲びます。私達の命の根であ

るご先祖の方々に感謝し、家族皆で手を合わせるこ

とは、先祖から受け継がれてきた大切な慣わしです。

祖霊(みたま)をまつる慣わしは、古い日本の信仰と

仏教思想がむすびついたものです。これと同じ意味

の大きなお祭りが皇室でも代々行われています。

それは、春季皇霊祭・神楽祭で、春分の日に斎行

されるお祭りです。皇室の御先祖である歴代天皇・

皇后・皇族に対する皇霊殿での御先祖祭り(皇霊祭)

と、天神地祇・八百万の神に対する、神殿での神恩

感謝のお祭り(神楽祭)からなります。宮中では、一

年に大小合わせて百以上の祭祀をされますが、その

中でも重要とされる大祭は、七つあり、春季皇霊祭・

神楽祭はその大祭の一つなのです。

たんぽぽ時代

坂村真民

たんぽぽのうたがうたわれ
 たんぽぽのうたがひろがり
 やがてたんぽぽ時代が
 やつてくるでしょう
 たんぽぽは幸せを与える花
 神のことばを伝える花
 ふまれても
 不幸を言わず
 どろまみれになつても
 立ち上がり
 根強く生きて
 太陽のような花をつけ
 不幸な人があれば
 飛んでいって慰め
 さびしがつている病人があれば
 その窓の下に根をおろして
 話し相手になつてやり
 地球のいたるところに咲く
 世界の花
 友よ
 たんぽぽの花を胸につけ
 新しい時代をひらいてゆこう
 真の平和がくるように

和歌コーナー



おひなさま おるのが むずかしかった
 さくらのシール いっぱいはったよ

小学一年 H・H

☆むずかしい方の折り方でおひなさまを作ることが
 できました。楽しく完成させてよかったね。

てらこやで おひなさまを 作ったよ

三月三日に かざりたいな

小学四年 H・A

☆折り紙は、いろんなものが作れてすごいですよ
 ね。ていねいに上手に折って、さすがです。

ひなまつり ひな人形に ぴったりの

うめやももの花 庭にさきほこる

小学五年 Y・Y

☆まだ寒い中、一番に春のおとずれをつける梅の
 花。ひなまつりの頃には、桃の花も咲きますね。
 心うれしい春の花ですね。



声に出してひびきを味わおう

今月の言葉

万葉集

てんむてんのう ぎよせい

第四十代 天武天皇 御製

よしの みみが みね

み吉野の 耳我の嶺に

とき ふ ゆき ふ

時なくぞ 雪は降りける

ま あめ ふ

間なくぞ 雨は降りける

ゆき とき

その雪の 時なきが如

あめ ま ごと

その雨の 間なきが如

くま おも

隈もおちず 念ひつつぞ来る

やまみち

その山道を

(大意)

みみが みね

み吉野の耳我の嶺に、やむ時もなく雪が降り

続いている。間断なく雨が降り続いている。そ

の雪がやむ時もなく降り続いているように、そ

の雨が絶え間なく降り続いているように、ただ

一途に思い続けながら、山道をひたすら思いに

沈みながらやって来たことである。その羊腸

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

たる山道を

ようちよう

次回は、四月二十七日(土)、六階和室です。

(文責・藤波)